

アルミ輸入はスラックアップが大幅増加

二次合金は生産微増も出荷は減少

アルミ橋本健一郎氏リポート②

■国際概況

一月前半は、米中が九日まで開いた次官級の貿易協議で、中国による米農産物の輸入拡大や中国の市場開放などで交渉が進んだと報じられたこと、米連邦準備理事会(FRB)が利上げを急がないとの見方が台頭するなどのプラス材料もあったが、世界最大の自動車市場、中国で二〇一八年の新車販売が二八年ぶりにマイナスに沈んだこと、メキシコ国境の壁建設を巡る与野党の対立で米政府機関の一部閉鎖が続いているなどを嫌気し、LMEアルミ相場はDOWN、一月十五日時点で一、七七五・五ドル(セツル)と月初価格から九四・五ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は国際通貨基金(IMF)が二十一日、二〇一九年の世界経済の成長率予想を下方修正したこと、米財務省がロシアRussiaへの制裁解除などのマイナスマaterialもあったが、中国政府が、減速傾向にある同国経済の安定化に向け一段の景気刺激策を実施する姿勢を示したことや、トランプ大統領が、中国との貿易協議合意への期待を高めたことを好感しLMEアルミ相場はUP、二月七日現在で、後半スタート価格から七六ドルUPの一、八八六・五ドル。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)

一〇・六五→一〇・四六(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると十一月の自動車生産台数は前年比四・六%増の八八万六、九六六台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、一月の自動車販売台数(軽除く)は前年比二・三%増の二四万九、〇四八台。

◆新設住宅着工件数推移

平成三〇年十二月の住宅着工戸数は七万八、三六四戸で、前年同月比で二・一%増となった。また、季節調整済年率換算値では九六・二万戸(前月比〇・六%増)となった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比九四・二%増の六〇九t、二次合金が二六・四%減の一、七八八t、スクラップが一三・四%増の一、九二六t、アルミ缶が五〇・六%増の七、二〇六t。

輸入は新地金が前年比二・九%減の一、一四四、二一一t、二次合金が〇・七%減の一〇万三、一五〇t、スクラップが一〇二・三%増の一、一三三t、合金スクラップは一六%減の三、五三六t。

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比六・四%減の一、五九九、九四四t。日本アルミニウム協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比〇・八%増の六万八、一四三tであった。

■国内概況まとめ

【自動車】

日本自動車工業会によると、一月の自動車生産台数は前年比四・六%増の八八万六、九六六台であった。輸出は四三万四、三九九台で前年同月比〇・二%増。

【販売】

日本自動車販売協会連合会によると、一月の自動車販売台数(軽除く)は前年比二・三%増の二四万九、〇四八台。このうち、乗用車一・三%増、貨物一〇・五%増、バス三・二%増。

【住宅】

平成三〇年十二月の住宅着工戸数は七万八、三六四戸で、前年同月比で二・一%増となった。また、季節調整済年率換算値では九六・二万戸(前月比〇・六%増)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で先月の減少から再びの増加となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、分譲住宅は増、貸家は減となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】

前年比〇・八%増の六万八、一四三tと三カ月連続プラス。出荷は一・四%減の六万八、四七一t。

【アルミ圧延・押出品生産数量】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比六・四%減の一、五九九、九四四tと二カ月連続マイナス。

(六面へ続く)

〔四面より続く〕

〔輸出〕

アルミ新地金が前年比九四・二%増の六〇九t、二次合金が二六・四%減の一、七八八t、スクラップが一三、四%増の一、九三三、九二六t、アルミ缶が五〇・六%増の七、二〇六t。

〔輸入〕

アルミ新地金が前年比二・九%減の一、一四四、二一一t、二次合金が〇・七%減の一〇万三、一五〇t、スクラップが一〇・三%増の一、二三三t、合金スクラップが一六%減の三、五三六t。

〔見通し〕

・自動車は生産が四・六%増。国内販売台数が前年比二・三%増。生産は三カ月連続プラス。販売が再びプラスに回復しており、これが続くかどうか今後注目。

・住宅着工の動向については、前年同月比で二・一%増となった。また、季節調整済年率換算値では九六・一万户(前月比〇・八%増)となった。今後プラス傾向が続くのか今後の動向に注目。

・アルミ圧延・押出生産数量

板類・押出生産合計は前年比六・四%減と、一二月連続マイナス。板類九万四、六二五tで八・八%減と、一二月連続でマイナス。押出類は六万五、三一九tで二・七%減と、三カ月ぶりにマイナス。

今後更にマイナスが続くかの動向に注目

・アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績

前年比〇・八%増の六万八、一四三tと三カ月連続プラス。出荷は一・四%減の六万八、四七一t。今後更に生産のプラスが続くかの動向に注目。

・アルミ輸出は、好調な外需生産を受けて新地金、スクラップ増加。

・アルミ輸入は好調な内需を背景にスクラップ増加。

〔スクラップ景況予想〕

流通在庫は年明け以降もLMEや中国塊の下落を受けてスクラップも連れて下落しており売り玉があるのでは？

需要面に関しては安価の輸入塊があり、スクラップの購入意欲は薄いのではないかと？

〔LME・為替予想〕

今月は米中貿易戦争の動向と春節明けの中国の動向に左右される。

米中貿易に関しては中国が米国からの輸入を大幅に増やして二〇二四年までに対米貿易黒字をゼロにする提案していたと報じられた。前日には「米財務長官が中国への追加関税の一部、もしくは全部の撤回を提案した」とも伝わっていた。米中の歩み寄りや貿易交渉が進展するとの期待が強まりなど進展して

おり解決とはいかないが米国が引き締めの手綱を緩める可能性があるのではないかと。

春節明けの中国に関しては、中国の購買担当者景気指数(PMI)が好不況の分かれ目である五〇を下回り、中国政府が減速傾向にある同国経済の安定化に向け一段の景気刺激策を実施する姿勢を示したことなどから、何かしらの景気対策が行われるのではないかと。これらを踏まえた二月のアルミ価格は、米中貿易戦争で米国に有利な進展があり春節明けの中国で景気対策などが行われた場合、二、〇〇〇ドル付近。

両条件が揃わなかった場合、現状からもう一段安の一、八〇〇ドル付近まで下落するとの予想。

ドル円値は一〇九円〜一一二円(TTM)台を予測。

スクラップ購買価格に関してはマイナス五円〜〇円程度と予測している。

消費の伸び、一段と鈍化へ

支援策が下支えもー中国

中国商務省は十二日、二〇一九年は景気が冷え込む中で、消費の伸びが一段と鈍化する公算が「非常に大きい」との見解を示した。米国との貿易摩擦のかけ取りで、中国が直面するリスクの高まりを強調した。

同省の高官は記者会見で、「経済発展を通じて中長期的に累積した矛盾やリスクが、一九年はさらに顕著になるだろう」と指摘。「消費市場が直面する圧力は強まり、消費の伸びはさらに減速する可能性が非常に高い」と述べた。

同高官は昨年の小売売上高の鈍化については、自動車販売や住宅関連支出の「一時的な弱さが原因だと説明。ただ、他の部門は「比較的正常的な」伸びを維持していると述べた。春節(旧正月)の連休中の小売売上高の伸びは、少なくとも一年以降で最低となった。景気に急ブレーキがかかる中、消費者は依然として慎重姿勢を取っていることが改めて示された。ただ、小売り部門に関して過度な悲観は戒め、政府の支援政策により下落傾向は和らげられるはずだと強調した。

◇KLT M ずす相場

十四日 二一・〇三〇 米ドル

三六 トン

◇東工取(十四日前引、限月二月)

金	四六六二	円
銀	出来ず	円
白金	二、八〇〇	円
パラジウム	出来ず	円